

埼玉大学教養学部同窓会（けやき会）だより

けやき

2008年3月1日発行
埼玉大学教養学部
同窓会（けやき会）事務局

総会開催日決定

五月二十四日（土）午後二時

東京駅八重洲口サピアタワー

（埼玉大学東京ステーションカレッジ）

四階四〇二号室A・B

けやき会の皆様へ

けやき会会長 榎木 誠
（一九七〇年中国文化卒）

けやき会の皆様 お元気に
ご活躍のことと存じます。教
養学部同窓会は一九九一年
に発足後、卒業後各分野で活
躍する同窓生のネットワー

クを強化し、親睦を深めるこ
とを目指した活動を続けて
参りました。さらに二〇〇三
年には、在学生と卒業生の結
びつきを強めることを目指
し、在学生にも同窓会の会員
として活動に参画して頂け
るよう規約を改正、多くの在
学生を仲間に迎え入れてき
ました。また、先輩である旧
文理学部文学科・人文科の同
窓会とも統合を実現するな

ど組織的な幅を広げてきま
した。

そうした中で、同窓会総会
の開催、会報の発行、同窓生
と在校生を結ぶ活動の一環
である「就職支援セミナー」
の開催など、様々な活動に取
り組んできました。しかし、
六〇〇〇人を超える同窓生
や約八〇〇人の在学生をつ
なぐ組織としての活動とい
う点では、まだまだ初歩的な
段階にとどまっているのが
現状です。

同窓生と在学生のネット
ワークを強化し、親睦を深め



ていくためにも、同窓会のホ
ームページの早急な立ち上
げとその整備、総会開催や会
報の発行に加えて、同窓生が
親睦を深め、切磋琢磨してい
くための場や機会を、今後い
ろいろと広げていきたいと
考えております。埼玉大学は
このほど、東京駅に直結した
ビル（サピアタワー）に「埼
玉大学東京ステーションカ
レッジ」を開設しましたが、
こうした施設を利用した同
窓会主催の催しなども企画
して行きたいと思っております。
埼玉大学をはじめ全国の
国立大学は、国立大学法人化
によって今、国立大学交付金
の実質的な削減など「学問の
府」としての基盤を守る上で、
経済的にも制度的にも非常
に厳しい状況に置かれてい
ます。とりわけ、教養学部な
ど人文系学部には強い逆風
が吹き荒れています。私たち
が学び集い、その伝統を培っ
てきた教養学部を守り、発展
させるためにも教養学部の
教職員の方々の協力関係
も一層強めていく必要があ
ると思っております。
国立大学を取り巻く環境
が厳しさを増す中で、各国立
大学では同窓会による大学
支援の動きが急速に強まっ

ています。埼玉大学でも、教
養学部はじめ経済学部、教育
学部、工学部、理学部の五学
部の同窓会連合会が設立さ
れ、大学側とも協力しながら、
埼玉大学の教育、研究環境の
整備や在学生の就職活動支
援など、よりよい埼玉大学づ
くりを目指して、様々な活動
を強めています。

けやき会としても、教養学
部の卒業生と在学生のネッ
トワークをより強めるため
の活動に一層積極的に取り
組むとともに、大学や全学の
同窓会との連携を強めてい
ければと考えております。

けやき会の皆様の一層の
ご活躍をお祈りいたします
とともに、けやき会の活動へ
の皆様さらなるご協力を
お願い申し上げます。

学部からのご挨拶

埼玉大学教養学部長

関口 順

けやき会（埼玉大学教養学
部・文理学部文学科のちに人
文科）の会員の皆様、お元氣
でいらっしやいますしよう
か？ また新たに会報が出
されるとお聞きし、一言ご挨拶



擲を申し上げます。
 法人化以来すでに4年目となり、われわれ教養学部もそれなりに試練を受け、鍛えられてきました。これからも人文学の根幹の部分を守りつつ体質を改善し、存在感のある力チツとした学部を作っていくと考えると考えております。学部・大学院における教育研究活動の現状は、幾人かの先生方の献身的なご尽力のおかげで、その大体をホームページ上にてご覧いただけます。

文理学部以来の歴史の流れを振り返ったとき、その節目となっているのは、やはり文理改組(文理学部が、理・密には理工)・経済・教養・教養部(厳密には新設)に分かれた、文化科学研究科修士課程の設置、同博士後期課程の設置だったと思われます。けやき会は、修士設置と博士設置のちょうど中間時

期に誕生しましたが、現在では文理の大先輩から若い在学生までを会員とし、また大学院修士生にも加わってもらい、間口と奥行きを拡げています。今では、毎年二〇〇名くらいの新会員が増えていくことと存じます。

教養学部はいわば文理の理念の発展的継承者であり、具体的には課程制、コース制、専修制と、学科内の編成を少しずつ変えながら歩んできました。いま教育機関としての大学をめくって、単なる国家財政面からの要請の域に止どまらない大きな課題が、個々の学問研究の現場をこえて浮かび上がってきているように思われます。文理学部・教養学部・文化科学研究科の伝統と経験の真価が問われていると申せましよう。

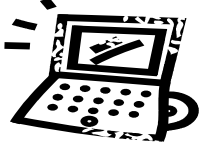
埼玉大学発展基金への寄付やその他諸々、苦しいときの神頼みよろしく、同窓会には何かとお世話になることが多い昨今でございます。誠に有難い次第です。今後とも大学・学部・大学院の活動の展開をお見守り下さりつつ、けやき会が会としてますます豊かに発展してゆかれるよう願っております。

ホームページ

開設進行中

けやき会会長 榎木 誠

けやき会が、卒業生と在学生、同窓生と学部などのネットワークの強化、相互の親睦を深め切磋琢磨していくために積極的な役割を果たせるよう様々な取り組みを強めていきたいと考えています。その一環として、かねて念願だった「けやき会(教養学部同窓会)ホームページ」を近く立ち上げることになりました。このホームページは、同窓会会員のみならずの双方方向の情報交換の場、自由な発信の場、相互交流を深める場として積極的に活用していただくことを目指しています。また、すでにホームページを立ち上げている経済学部など他学部同窓会や全学同窓会連合会、埼玉大学や教養学部などのリンクページも進めながら、使い勝手の良いホームページにししていきたいと考えております



す。けやき会会員のみならずの積極的な活用を願っております。また、ホームページの立ち上げを一つのステップに、同窓会の活動を活性化させていくためにも、みなさまのさらなるご協力をお願い申し上げます。

転退職された

先生より

元木 靖先生

(地理学)

「教養」について

私が本学に勤務した昭和五十年からこの三月に退職するまでの三十二年間は、日本経済の高度成長が終息をむかえ、世の中が大きく変わり始めた時代であったように思います。埼玉大学をめぐる内外のさまざまな環境変化(できごと)は、少し大袈裟な言い方をしますと、多くの人々が「生産」から離れ、サービスという名の流通産業で生きなければならな

なった文明社会(?)の課題を、わたくしたちに問うているように感じます。

私は、埼玉大学で教養部と教養学部という、いわば「学」のつく所と「学」のつかない所で、多くの学生・同僚の皆さんと語り合ってきました。「教養」が果たすべき役割は、これから、ますます重要になって来るでしょう。ただ「教養」にも文理融合的な教養と、文化的理念の上に立った教養との二つが区別されるのではないのでしょうか。教養部の時には文理融合的教養を期待する雰囲気がありましたが、教養学部ではこの専門領域をベースとした教養が語られていたように感じ

てきました。

どのような課題に向けて、どのような「教養」が期待されているのか。私は4月からある某私大の経済学部勤務することになりましたが、之からも「教養」について関心をもち続けて生きたいと思っております。

長い間、お世話になり、ありがとうございました。



山田 満先生

(国際関係論)

国際協力論は現場を見て

私は国際協力論を担当しましたが、国際協力論は基本的に机上の学問ではないので、現場を見なくてはと思っ、ほぼ毎年東ティモール、カンボジア、タイなどの途上国にゼミ生、院生を連れて行きました。しかしその一方で、国際社会は紛争やテロが増大し、正直言つてリスクも大きく責任の重さを度々感じました。でも今では、彼ら彼女らの何人かはその経験をバネに、途上国、紛争国で活躍している者もいます。世界各地から時々送られてくる電子メールに、教育者としての満足感を味わうことができます。と同時に、まだまだ卒業生には負けないぞ！と、この6年間に研究者としてもそれなりの業績が残せました。といつことで、本当に埼玉の6年間は教師としても研究者としても充実した日々でした。もちろん今後



とも埼玉大卒業生との絆は切れることはありませんが、ともかくにも埼玉大から大きな財産を頂いたことを感謝しています。

山野 清二郎先生

(日本文化)

文理学部と教養学部

文理学部文学科卒の最後の教員であった私にも、定年が訪れた。思えば遙かなる道のりであった。旧制浦和高校の後身文理学部は、外国語が殊の外厳しく、文学科の必修は最低でも既修未修合わせて、現標準で数えると二十二単位に及んだ。漢文学を専攻するとこれに中国語が八単位加わる。まさに語学学校の趣があった。

卒業後九年して母校に戻つてみると、あまりの語学の変貌ぶりに驚いた。学生数が増え、授業科目数も増し、敷地も建物も新しくなり、各段の向上の如くに映つたが、オンポ口校舎間の芝生に寝ころび、語学に追われながらも友と語り合ったあの歳月は、青春の質として決して今に劣らないと回顧する。基礎学

ばかりの専攻からなつていた各領域も、今や応用分野華やかとなり、学生はやる気さえ起こせばかなり実りある成果が期待できるのに、そううまく行かないのはどうしてだろうか。



広く他分野を収めるのは有意義なのだが、まずは自力で根城を築いて発進することが肝要だ。そういう人にこそ、この学部の輝きがわかるはずのものと思ひ続けている。

八田 生雄先生

(西洋史)

札所巡り

秩父札所二六番の円融寺から歩き出し、工場敷地を突つ切つて、急な石段を登つた先に奥の院の岩井堂がある。そこでしばしば休憩した後、尾根道を三〇分程歩いて下山した所が二七番の大淵寺である。この山道には足場の悪い岩場が何箇所かあつて、かなりのスリルを伴つ。五月の休日に新緑の秩父路を歩いていると、中高年のハイカー

を見かけることが多い。私共夫婦も例に漏れず、おにぎり持参で札所巡りをしているわけである。

羊山公園の芝桜のごとく、連休中の花見客が全国のベストテンに入るような華やかな景観も秩父エリアにはある。しかし今年の私の目にとくに印象的に思われたのは、寺の境内や裏山の日陰に群生するシャガの花である。シャガは、花は咲けど、徒花で実はならない。その花は、一輪一輪は一日花である。花全体に色模様が控え目なところから、それだけ清楚感が漂つ。けれども何度も目にすることによって、群れて生きる花のしたたかさも感じさせられたのである。

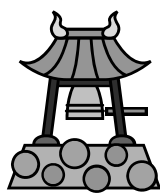
花崎 泰雄先生

(留学生教育担当教員)

歴史学アカデミックな

眠りの楽しみ

ミケランジェロの「私はまだ学んでいる」という言葉が、



五〇歳を過ぎて私が晩学にいそしんだ大学のモットーでした。教養学部では留学生担当という役割から、みなさんの多くとは、ゼミなどで学ぶ楽しみを親しく共有する機会のないままに終わりました。残念なことです。

退職後、ミケランジェロの実践につとめています。五月は東洋文庫で連続三回の講演を聞きました。第一人者によるディレクタンティブズムの粋と贅を尽くしたお話でした。にもかかわらず、毎回途中でうとうとする始末でした。申し訳ないことです。

教養学部の講義では東南アジア政治の話などをいたしました。私のおしゃべりをBGM代わりに、半覚半睡の幽玄な世界にたゆたう学生さんが少なからずいらつしやいました。教壇を降りて講演会の聴衆のひとりとなつて初めて、高尚な話ほど眠りを誘い、その眠りがなんとも甘美であることを知りました。驚沢なことです。



西坂 靖先生

(歴史学)

経験を生かして

二〇〇七年の三月末で埼玉大学教養学部を辞し、四月より専修大学文学部(神奈川県川崎市)に移りました。
 埼玉大学教養学部には、一九九五年四月に着任し、以来一二年間、歴史学コース・日本文化コース、そして歴史学専攻に所属しましたが、その間に、様々な経験、特に教員としての経験を積むことができたことはたいへん有り難いことでした。数えてみると七八名の学生の卒業論文に、指導教員として関わりました。七年生、八年生の卒業指導など、難儀な場合もありましたが、今となっては懐かしく思い出されます。総じて教養学部の学生の皆さんは能力が高く、かつ真摯であり、こちらが出した指示にきちんと対応してくれました。そのおかげで、私の方もなんとか指導教員の役割を果たすことができたように思います。

今後は、新しい勤務先において、埼玉大学教養学部での経験を生かして、教育と研究

に努力していく所存です。卒業生の皆様のご健勝とご活躍、ならびに埼玉大学教養学部のいっそうのご発展をお祈り申し上げます。

卒業記念

パーティー

二〇〇六年度教養学部卒業生一九四名は大宮ソニックスティの大学全体の卒業式終了後、教養学部大会議室で専攻の先生より卒業証書いただきました。同窓会から榎木会長が関口学部長の後、祝いの言葉を贈りました。この証書授与式は卒業記念パーティー



パーティーの中に組み込まれており、二年生の有志が準備をしたもので卒業したという華やいだ気分の中、女子学生の晴れ着も鮮やかにアルコールも入ってとても明るく楽しい雰囲気で行われました。卒業証書を渡すときに先生から一言お祝いの言葉をかけられた後、卒業生がみんなを笑わせるパフォーマンズをしたり、専攻ごとに記念撮影をしたり、少数精鋭の教養学部ならではのアットホームな良さが垣間見えた卒業記念パーティーでした。



定年後は

大学へ

教養学部一九六九年卒業生 関根増男

六十歳定年で三月末日まで忙しく仕事を済ませ、永年使ってきた物の片付けも終わって、四月一日から突然暇になりました。さて、何をしようか。まったく自由というのはうれしいはずなのに、おもしろくありません。近所や自治会テレビューも急にはで

きません。そこで、大学に行つて好きな講義を受けて、サークルでも入ったら、楽しいだろうと考えました。幸い母校に友達の深澤教授(社会学)がいるので、少人数の学生とコミュニケーションが取りやすい社会学演習を取りました。とても自分にとっては難しかったけれど、若い学生と話し合いができるのが、刺激的でした。年配者の経験も話すこともでき、自分の子どもではまともにも聞いてもくれないのに、ここではまじめに聞いてもらえます。授業の前日はしっかり教材を読んでいきます。学生の時はこんなに勉強をしたことはありません。

サークルは体力がないので囲碁部に入れてもらいました。コンパには喜んで参加し、多少の金銭的支援も忘れません。とても優しく、「関根さん。関根さん。」と、声を掛けてくれます。大学には、たくさんサークルがあり、どれか自分に合ったものが見つかるでしょう。

ぜひ、お近くの大学に本科生として、もっと意欲のある方は大学院へ行くのが生きがいとなるでしょう。安く気楽に行きたいなら、余裕をもって週二日程度で聴講生や履修生になるのがお勧めです。大学の先生にも学生の刺激に、また大学経営の助けにもなるので言はれるでしょう。

あとがき

けやき会の皆様に、やっと会報を発行することになりました。
 運営資金が少ないので、まだ教養学部同窓会(けやき会)に入会していない方は、ぜひご入会して下さいますようお願いいたします。また、ご寄付をいただけると助かります。
 〒338-8570
 さいたま市桜区下大久保255
 埼玉大学教養学部内
 Eメール
 kyoyoml@america.coop.saitama-u.ac.jp
 (変更予定なのでHPができれば、HPで確かめください)
 教養学部同窓会(けやき会)
 事務局担当 関根増男